

「隠れ型アレルギー」ご存知ですか？

最近の話題は、中国製の冷凍ギョーザから農薬「メタミドホス」が検出された事です。高濃度で汚染されており、異臭や味がまずかったという事ですが、それを食べた人が食中毒を起こし、重体になった人も出てしまいました。

今、日本は「偽装食品」が横行し、食品会社の安全へのモラルが問われています。「我々の身体は、食べた物でしか作られない。」その格言の通り、食べ物が身体に悪い物であれば、その身体は健康を保てないのは当然です。身体だけでなく、精神までも犯されることになるのです。

以前、「食物アレルギーの脅威」(河野 泉著、桐書房)を読んだ事があります。アトピー性皮膚炎、じん麻疹、気管支喘息、アレルギー性鼻炎だけでなく、食物によって偏頭痛、多動障害、集中力低下、攻撃的行動、情緒不安、慢性疲労、不眠などが、「食物アレルギーの症状」として考える必要があるという事でした。アレルギー反応は脳や自律神経系にも起きているからです。原因と思われる食物を除去すると、それらの症状が改善されることから食物アレルギーが証明されています。

我々の食物には、様々な添加物(農薬、保存料、着色料など)が含まれています。それらが微量であれば今回のような「急性食中毒」症状は起きませんが、長期的には「慢性微量食中毒」(例:水俣病など)、または身体が過敏になるアレルギー症状も起きてくるのです。

現在、当クリニックでも行われている一般的なアレルギーの血液検査は、IgE(アイ・ジー・イー)抗体を調べています(保険適用)。これは「即時型アレルギー」に関係し、食べた直後から数時間後までに起こる反応です。

一方、「遅延型アレルギー」があり、IgG(アイ・ジー・ジー)抗体の血液検査があります。別名「隠れ型アレルギー」と言って、食べた数時間後から数日後に症状が徐々に出てくるアレルギーです。従って、食べた物を疑わなければ症状の因果関係が分りにくいのです。これまでは診断のために食物日誌、除去負荷テスト、スキントテストなどをしていますが、最近、簡単な血液検査で一度に「96種類」の食物アレルギー(IgG抗体)が分るようになりました。但し、検査は保険適用がなく、約3万5千円かかります(米国へ郵送)。

異常な症状が続いているが、しかし現在の医学検査ではほとんど正常値を示して原因が分からない場合は、「遅延型アレルギー」も考えなくてはなりません。米国では、自閉症、ADHD(注意欠陥・多動性障害)、過敏性腸症候群、重症アトピー性皮膚炎、慢性頭痛、浸出性中耳炎などの症例が、この食物アレルギー検査(アレルギー・チェック)で原因が分かり、具体的に除去した結果、症状が劇的に改善したという報告が多数あります。

悩んでいるあなた、
一度検査を受けてみたらいかがですか？



(たまなほ)